ソレハホウカゴノトショシツ

春夏琉華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ソレハホウカゴノトショシツ

【Ｎコード】

Ｎ９６３０Ｈ

【作者名】

春夏琉華

【あらすじ】

夏休み直前の図書室から始まる、冷淡な少年の物語。

それは放課後の図書室。

窓際で本を開く僕。
あまり興味の無い本だ。
ＳＦと学園ものが混じった妙な物語。
ただ流し読んでるだけ。
時間つぶしがしたいだけ。
ただ、それだけ。

夏休み直前はこれだから嫌いだ。
延々テストを返す特別日課。
午前中で終わり。
午後は自由時間。
部活をやってるやつは部活。
遊びたいやつは電車に乗って街に出る。
僕は？
部活にも入ってないし、遊びたくもない。
でも、家にもいたくない。
だから、ここにいる。

しんと静まりかえっている図書室。
僕がページをめくる音と、冷房から聞こえる機械の音だけ。
その雰囲気だけ楽しんでる。
物語は佳境に入っていた。
何がどうなってるいるのか、さっぱりの展開だけど。
……。
気が散ってしまった。

本を閉じる。
ぼーっと眺めていられる間が華なのだ。
何故こんな展開なのか、とか考え出したら駄目。

僕は鞄を持つと、本を元の場所に戻してから図書室を出る。
がらんとした廊下。
階段へ向かう。
その途中で、激しい音をたてて開く扉。
二年三組の教室。
そこに立っているのは女の子。
スカートがびりびりに破けてて。
上半身は下着だけで。
髪がとてもボサボサで。
とにかく赤かった。
手には血の付いたナイフ。
サバイバルナイフってやつかな。
僕を見て、とても驚いた顔をしている。
見開いた目には涙の跡。
女の子の肩越しに教室の中を見る。
三人。
いや、三体か。
もう人間としては機能していない。
机の上にうつぶせるようにして一体。
それに重なるようにもう一体。
最後の一体は、床でまだ痙攣している。
ぱっくりと割れた喉元からは赤い液体が流れ出ていた。
見ていて面白いものではないだろう。
女の子の唇が震えている。
私は悪くないの。
そう言ってる気がした。

悪いのはあの人たちなの。
そう。
興味ない。
僕はおもむろに歩き始める。
後ろでまだ何か言ってる。
うるさい。
僕は帰る。
階段を下りて。
昇降口でスニーカーに履き替えて。
とぼとぼと道を歩いて。
いつもの駅で電車に乗って。
いつもの駅で降りる。

はずだった。
熱い。
腰が。
振り返る。
女の子が僕を見上げていた。
私は悪くないの。
そう言った。
女の子の手が真っ赤に染まっている。
誰の血？
僕のだ。
ゆっくりと、女の子が離れる。
僕の腰に突き立っているナイフ。
抜く。
血が出てくる。
ワイシャツが汚れた。
帰って洗濯しなきゃ。
私は悪くないの。

女の子がもう一度そう言った。
だから、僕は言ってやった。

そう。
興味ない。

僕は熱さを増す傷口にタオルを当てる。
洗濯じゃ間に合わない。
穴が開いてる。
買い換えなきゃ。
階段を下りて。
靴箱でスニーカーに履き替えて。
重たい物が落ちる音がした。
昇降口の外。
さっきの女の子だったものがこっちを見ていた。
光の無い目がこっちを見てる。
校庭にいた生徒たちが集まってくる。
僕はその波をかいくぐるようにして外に出る。

とぼとぼと道を歩いて。
救急車とすれ違う。
駅前でももう一台。
改札をくぐる。
駅のホームに立つ。
周囲の視線が僕に向かっていた。
足下を見る。
赤い水たまり。
ホームから線路へとしたたっている。

ぽつ、

ぽつ、

ぽつ、

気づく。
腰が熱くない。
触る。
冷たい。
手を見る。
真っ赤。
ああ、そうか。
まずはシャワー浴びなきゃ。
視界が揺らぐ。
近づいてくる電車。
いつもの電車。
それが眼前に迫ってきて。
赤く灼ける夏の空が見えた。

＊

それは放課後の図書室。

窓際で本を開く僕。
傍らにいる女の子。
女の子は言った。
あなたが悪いのよ。
そう。
僕はページをめくる。
女の子は言った。

知ってる？
あなたも、もう死んでるの。
気が散った。
僕は本を閉じる。
そして、言ってやる。

興味ない。

しんと静まりかえっている図書室。
誰もいない図書室。

夏休み直前はこれだから嫌いだ。

【完】

（後書き）

どうしてこうなった、と作者自身が不思議がっている作品です。この作品を書いた動機がしょうもない動機なのですが、一応の目標は達成できました。
ご意見、ご感想お待ちしております。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9630h/

ソレハホウカゴノトショシツ

2010年10月28日02時46分発行